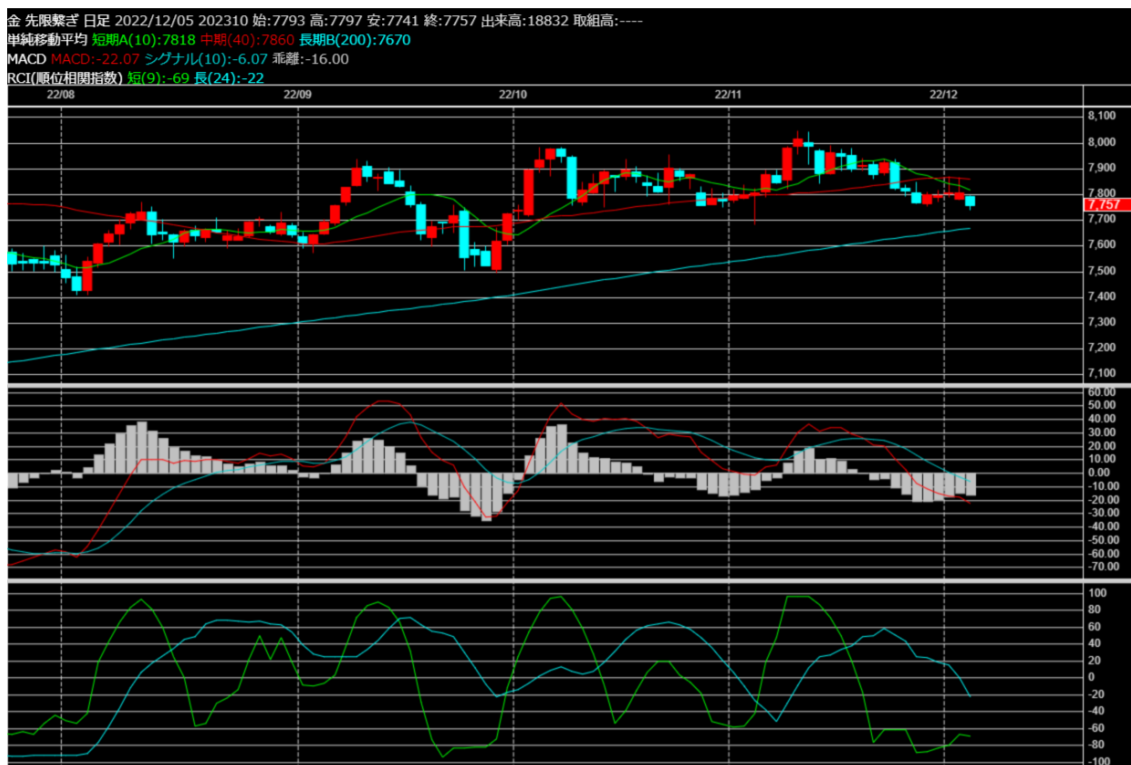


＜金標準先物、雇用統計を受けて 7700 円へ向けた戻り売り基調・・・＞



(出所：オアシス)

3 日以降は金融担当者が金融情勢に対して発言が禁止されるブラックアウトの時間帯に入るため注目度を高めたパウエル FRB 議長の講演で「利上げペースを落とす時期は早ければ 12 月の会合になる可能性がある」と示唆し、5 会合連続の 0.75%の利上げ観測が後退し 0.5%の利上げを織り込む動きを見せ、また翌日は PCE デフレーターが 6.2%から 6.0%へ低下、コア部門でも 5.2%から 5.0%へ低下を示し、ISM 製造業景気指数も 50 を割り込む 49 となるなどインフレ抑制の動きを好感し 10 年債金利は 3.6%を下回り、為替市場では 139 円から 135 円へ円高ドル安の動きを強めた事で NY 金はドル安を受け一夜で 55 ドル高を演じるなど 1800 ドルを回復している。

しかし円建ての取引である金標準先物は、円高の影響を受けて静観に近い動きを見せている。また週末の雇用統計では非農業部門就業者数が 26.3 万人増と事前予想を上回り、平均時給も 0.6%と予想の倍増を見せるなど、依然とインフレ高を示す内容に長期に渡り金利は高止まりを見せる動きを肯定している。そのため 7800 円を割り込んだ金標準先物は、円高の煽りを受けて依然 7700 円に向けた下値追いが予想されるため、戻り売り基調に注意が必要と思われる。

＜テクニカル＞

金標準先物の日足の MACD では、MACD は下げながらシグナルも下げるなど下向きを維持し、RCI でも短期が下値で維持しながら、長期が下げて来ている。特に日足が 10 日移動平均線を下回るなど弱気のシグナルを見せており、下値追いの時間帯と思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 3,075,000 円(2022 年 12 月 5 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 37,620 円(2022 年 12 月 5 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-3249-8827 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>